

統一教会・現役二世信者 たちの声

壁の向こうの言葉を聴く

うりう たかし

瓜生 崇著

▼46判・並製カバー・244頁・定価 一、九八〇円



高額献金や銃撃事件のその裏で、教団改革を望み声をあげてきた二世信者たちがいる。教団と世間との狭間で揺れる9人の声を収める。

2025年5月刊行

【目次】

第1章 壁の向こうの言葉 第2章 二世信者たちの声

1. アカリさん(20代・祝福二世)
銃撃事件があつてから、「こういうのを恨んでた」って口にする二世が多くなつて。
2. ミユキさん(30代・祝福二世)
何で自分はこの教会にいるの？ いなくてもいいのに、いることを選択した自分ってなんだろう。
3. ナミさん(20代・信仰二世)
私たちは間違つて生まれたの？ 生まれてくること自体が悪なのか。
4. サトルさん(40代・祝福三世)
自分の中にも宗教への怖さとか嫌悪感があつたんです。だから教会にも通わなくなりました。
5. トモキさん(30代・祝福二世)
拉致監禁した人たちが悪魔だとは思っていません。でも監禁された母にとっては悪魔ですよ。
6. トモカさん(20代・信仰二世)
やばい、私その信徒なんだけどな！ すみません、この料理信徒が出してるんですけどー。
7. ゴロウさん(20代・祝福二世)
祈れば全て解決する、とか。でも信じて変わらないこともありますよね。

第3章 統一教会は変わることができるのか

1. 小島希晶氏(信者の人権を守る二世の会代表)
私は教団を含む誰の代弁もしない。自分の言葉で、自分の責任で発信する。
 2. 勅使河原秀行氏(家庭連合教会改革推進本部長)
あの頃は朝アパートを出ると毎日テレビカメラが2台ぐらいは外に来ていました。
 3. 山口広氏(弁護士・全国霊感商法対策弁護士連絡会代表世話人)
自分が自分の感覚として、これが納得できるかなということに常に思つてほしい。
- 私たちはどうすべきか(あとがき)

◆著者略歴

瓜生 崇(うりう たかし)

一九七四年、東京都生まれ。電気通信大学中退。大学在学中に浄土真宗親鸞会に入会、同講師部にて12年間の活動後、脱会。脱会後にIT企業や印刷会社のシステムエンジニアを経て、二〇一一年から滋賀県東近江市の真宗大谷派玄照寺住職。脱会後はカルトの脱会支援活動に尽力するほか、大学や高校、寺院などでライフ・健康支援・相談センター招へい教員。著書に『なぜ人はカルトに惹かれるのか——脱会支援の現場から』(法蔵館)ほか。

注文書	
(書店印)	
様	冊
ご担当	
法蔵館	定価 一、九八〇円
瓜生 崇著	ご住所
統一教会・現役二世信者たちの声	お電話
壁の向こうの言葉を聴く	お名前
ISBN: 978-4-8318-5729-3 C0014	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp